

地域特性を活かした技術ベンチャー 起業化事例(その2)

(株)ホープの事例

目次

- (1) (株)ホープの概要
- (2) 経営危機をどうしたか？→ビジネスモデルの確立
- (3) (株)ホープの財務内容を分析

(株)ホープの沿革

土地は広大なものの、冬が長く夏が短い北海道で、もっと付加価値の高い農産物を作り、北海道農業の成長に貢献したいと考えていた高橋社長は、1987年 33歳のとき独立。

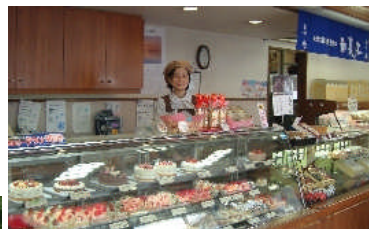
当初は農協や企業からの受託研究や花卉や食用ユリを中心としたバイオ苗を提供し、生産者の収穫量の増大を目標に事業を進めていましたが、日本園芸学会での発表を聞いて、「四季成性(しきなりせい)イチゴが北海道の冷涼な気候を活かした次なる産業になりうる。」と確信し、1989年に研究農場でイチゴの栽培を開始。1995年には同社独自の四季成性イチゴ「ペチカ」が種苗法品種登録されました。

その後、1997年に業務用イチゴ卸で有力だった「株式会社西村」を買収することによって、バイオ技術を使つての苗の生産・販売という生産者に近い事業だけではなく、全国の優良産地からイチゴを仕入れ、洋菓子メーカーや製パン会社に業務用イチゴとして販売するまでのトータルビジネスに進出。

洋菓子メーカーの「夏秋期でも国産イチゴを使いたい。」というニーズに応え、生産・流通体制を整備して業容を拡大させ、2005年8月1日JASDAQに上場しました。

(株)ホープはこんな会社

- 農場と店舗



ホープの場所



会社概要

- ■ 会社名株式会社ホープ
- ■ 所在地北海道上川郡東神楽町14号北1番地
- ■ 代表者高橋巖(代表取締役社長)
- ■ 設立昭和62年6月22日
- ■ 資本金4億2125万円(平成17年7月31日現在)
- ■ 事業所北海道本社／東京本部／大阪出張所
- ■ 研究圃場中富良野／東神楽
- ■ 物流センター新木場／東神楽
- ■ 従業員数37名(平均年齢38歳4ヶ月)
- (平成17年7月31日現在)

製品案内



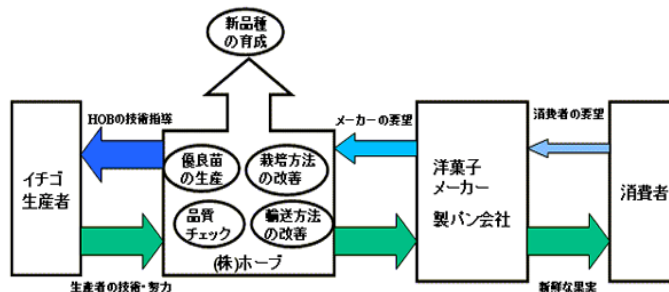
四季成性品種「ペチカ」
 1年中いつでも栽培できる四季成性いちご
 です。
 業務用いちごは、味はもちろんですが見た
 目(色、形、規格の統一性)も大変重要なポ
 イントです。
 ペチカは以下のような特徴を持ち、高い評
 価を受けています。

- ・端正な円錐形
- ・光沢ある鮮赤色
- ・食味は良好。ジューシー。
- ・夏期でも安定した品質(耐暑性に優れる)
- ・生産技術の確立により広域で栽培が可能
- ・均一無病苗(親苗と同じ遺伝子情報を持ち、ウィルスや病原菌に汚染されていない苗)として量産化

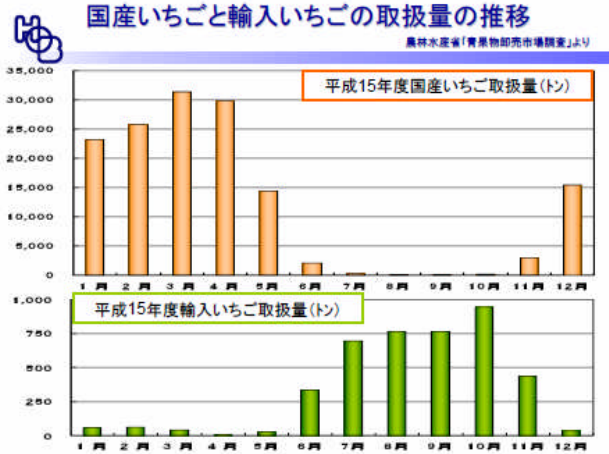
ホープのビジネスモデル

・技術力+自社販売ルート確保により、年間を通じた洋菓子用イチゴの供給が可能に。

国産イチゴの育苗から果実販売までのシステムを確立



ホープのビジネスモデル2



経営危機をどう克服してきたか？

創業期 1977～	川下へ 1981～	成長期	2005
個人事業 ★	価格暴落→販路確保 ★	企業防衛意識の欠如 ★	ジャスダック上場

第1回目の経営危機

第2回目の経営危機

第3回目の経営危機

第1回目の経営危機

- 大規模に自社栽培→病害で全滅
- 育苗→農家への販売→果実の仕入・販売という現在のビジネスモデルへ？
- これにより、
 - 生産リスクの分散
 - 成果の農家との共有という双方メリットが発生？

第2回目の経営危機

- 大豊作による価格暴落
- 10名いた社員を5名へ減らす
- 一番辛い危機であった
- 自社の販売網が必要、との認識から97年、イチゴ卸の大手「西村」を買収
- →現在のビジネスモデル「育苗から果実販売」まで、に繋がる
 - 生産者：安定した販路
 - 製菓業者：年間を通じた良質の果実の供給という双方メリットが発生？

第3回目の経営危機

- 成長期、上場も視野に入れ、人材確保の必要性
 - 入社した専門家に人材・農家を引き抜き独立される
 - 企業としての必要な統治システムを構築
→上場にも必要な事項
- 3回の危機→危機に対するリスク管理を通じて現在のビジネスモデル「winwinモデル」が確立されたとも言える。

経営ビジョンと共有化

「優秀な技術者を10人集めて、最高の仕事をして、農閑期はたっぷり遊ぶ」理想

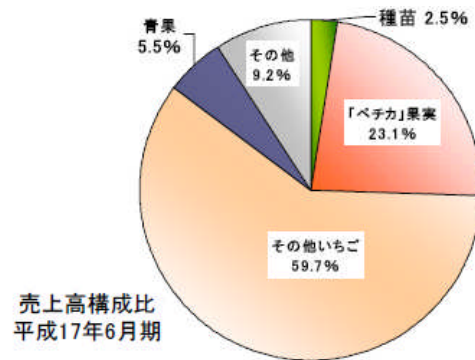


従業員・農家のために会社を成長させることが必要、
という意識転換



起業家の宿命？

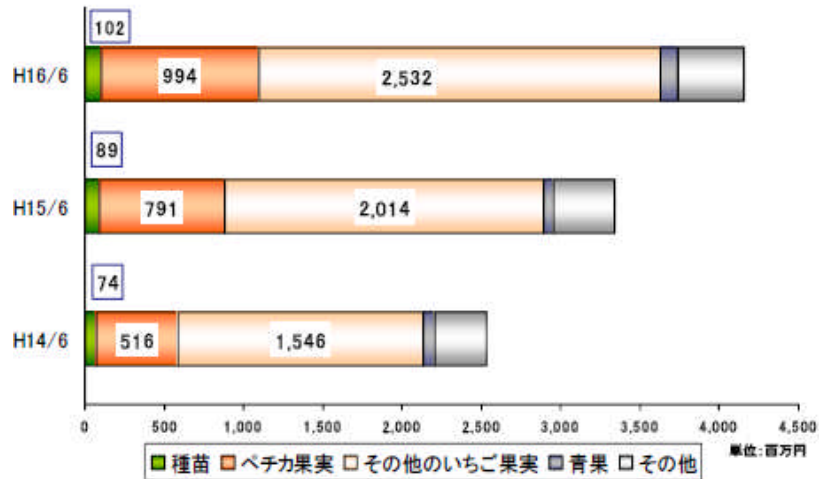
売上比率



上場時の株主構成

株主	出資比率
高橋 巖	54.40%
道銀どさんこ1号投資事業有限責任組合	4.80%
高橋 ゆかり	3.30%
(株)ジャフコ	3.30%
ジャフコ・G6(A)号投資事業組合	3.30%
ジャフコ・G6(B)号投資事業組合	3.30%
鈴木 直則	2.40%
(株)北海道銀行	2.40%
(株)砂子組	1.80%
ジャフコ・JS3号投資事業組合	1.80%

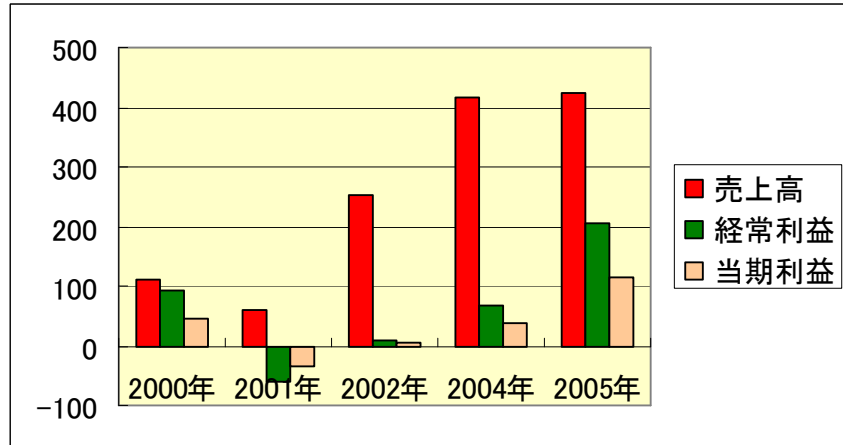
品目別売上高推移



業績の推移

	前期	2期前	3期前
売上高	4,228百万円	4,158百万円	3,343百万円
営業利益	209百万円	70百万円	89百万円
経常利益	205百万円	69百万円	86百万円
当期利益	115百万円	39百万円	42百万円
総資産	1,161百万円	1,016百万円	1,070百万円
株主資本	774百万円	675百万円	651百万円
資本金	306百万円	306百万円	306百万円
有利子負債	86百万円	144百万円	202百万円
繰越損益	160百万円	77百万円	54百万円
総資産経常利益率	18.83%	6.62%	8.16%

業績の推移



売上: 千万円、営業・経常利益: 百万円